

# J.S.S.W NEWS

## 日本ソーシャルワーク学会通信

2023年3月15日

【発行責任者】 小山 隆

【編集責任者】 杉野 聖子・池田 雅子

## No.134・135 Contents

I. 巻頭言 猛暑に想うこと ソーシャルワークと自然環境 ……………	1
II. 日本ソーシャルワーク学会第40回大会開催案内 ……………	3
III. 日本ソーシャルワーク学会第39回大会報告 ……………	5
IV. 日本ソーシャルワーク学会 総会報告 ……………	8
V. 2022年度第1回理事会 報告 ……………	20
VI. 2022年度第2回理事会 報告 ……………	24
VII. 2022年度第3回理事会 報告 ……………	25
VIII. 文献紹介 ……………	27
編集後記 ……………	池田 雅子 …28

### I. 巻頭言

#### 猛暑に想うこと

#### ソーシャルワークと自然環境

2022年8月31日 脱稿

ヴィラーク ヴィクトル  
日本社会事業大学 **Virág Viktor**

(学会理事 / 研究推進第2委員会、国際委員会)

日本列島は今年の夏も記録的な猛暑に包まれ、その記録はほぼ毎年のように更新され続けている。地球温暖を文字通りに肌で感じる事が日常化し、気候変動どころか、気候危機に直面している時代に突入している。その影響の下、激しい豪雨や非常に強い台風などの異常気象も以前と比べて大きい規模で、より頻繁に起きている。全世界的に同じ傾向がみられ、例えばヨーロッパでもエアコンがもはや必需品となった。もともと温度が高く、自然災害が多い途上国の状況はさらに深刻で、技術面やインフラ整備への投資による解決手段も限られている。異常気象や災害は、人々の生活だけでなく、健康や生命を脅かしている。熱中症や災害で命を落とす人もいれば、海面上昇や砂漠化によって土地と生計を立てる手段を失う人もいる。日本でも異常気象が農作物などの物価上昇につながるように、気候変動や環境及び生態系の破壊は世界的に食糧不足や飢餓などの苦難をもたらしている。

気候変動等の環境問題が人々の生活に与える打撃を受けて、近年はソーシャルワークにおいても自然環境への関心が高まっている。本来のソーシャルワークでは比喩的な意味で使われてきたエコロジカル（生態学的）な視点を、実際に自然環境まで適用する動向がみられる。ドミネリ（Dominelli）が先駆的な著書（2012, Polity）においてグリーンソーシャルワークを提唱したのは10年前のことで、本書は日本の訳書（2017, ミネルヴァ書房）も存在する。グリーンソーシャルワークを、コミュニティ・レベルの取り組みを中心に、人災を含む自然環境的な課題に取り組むソーシャルワークとして捉えることができる。ここでいう人災は、環境汚染などの人間活動を原因とした気候変動によって起きる自然災害も含まれている。このアプローチの特徴の一つは、人々のウェルビーイングと同時に、地球（即ち自然環境や生態系）のウェルビーイングも視野に入れている点である。もう一つは、従来の人権の考え方を越えて、「他人に気を使う義務」と「他人に気を使ってもらう権利」の促進を目指すことである。

類似的の意味で、エコソーシャル・アプローチも使われるようになってきている。ランバリー（Rambaree）ら

(2019)によれば、このアプローチは生態系におけるすべての生命体の相互関係を認めているため、これらの関係とすべての生き物のウェルビーイングを促進するように、各種資源の公平かつ持続可能な活用を念頭においている。この見方を通して、過剰な消費主義、物質主義、人間中心主義、抑圧、人々や地球の搾取を通して、社会的・環境的な不正義につながる近代の社会構造、価値観、信念、慣習、また生活様式を批判的に検討し、問い直すことが求められている。

これらのアプローチは、正義と人権の概念を拡大している。経済格差や不平等に焦点をおく従来の経済・社会正義に加えて、気候・環境正義も重視されている。これらは、気候変動や環境問題に最も加担していない人々が、その悪影響を最も受けやすいという不公平な構造の改善を目標としている。つまり、冒頭で述べたように、気候変動をもたらす要因（二酸化炭素の排出量など）が主に産業化が進んでいる諸国・地域に集中しているにも関わらず、気候変動がもたらす困難（災害や環境破壊、食糧不足など）はむしろ産業化が進んでいない諸国・地域にシワ寄せが生じるという現実の認識が前提となっている。また、人権については、いわゆるホリスティックな人権枠組みが提唱されている。本枠組みは、個人の権利（尊厳と自由権）、社会的な権利（市民権、経済権、政治権）、文化的な権利の他に、生態系の権利、また自然界のより広範な権利を認めている。

上述の理論的な動向は、ソーシャルワークの主要な国際団体の行動にも反映されている。国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）は、ドミネリを委員長として、持続可能性・気候変動・災害介入委員会を常設しており、活動に取り組んでいる。国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）では、持続可能な開発目標（SDGs）に関するポリシーペーパー（[http://www.jasw.jp/news/pdf/2021/2021\\_ifsw-sdgs.pdf](http://www.jasw.jp/news/pdf/2021/2021_ifsw-sdgs.pdf)）やエコソーシャル・アプローチに関するポリシーペーパー（[http://www.jasw.jp/news/pdf/2022/2022\\_ifsw-policy.pdf](http://www.jasw.jp/news/pdf/2022/2022_ifsw-policy.pdf)）を策定しており、これらの問題のソーシャルワーク的な捉え方、ソーシャルワーク実践にできる貢献、ソーシャルワーカーに期待される役割、ソーシャルワーク専門職に求められる取り組みについての方向性を示している。また、近年の国際会議においても、SDGsなどのように、自然環境まで視野に入れた大会テーマの設定と、実際に関連する実践及び研究報告が多くみられている。象徴的なものは、「新しいエコソーシャル世界の共同構築：誰一人も取り残さない」をテーマに2022年6月29日から7月2日まで開催された人々のグローバル・サミットである。この会議は、IASSWとIFSW、国際社会福祉協議会（ICSW）の他に、複数の当事者団体や国連社会開発研究所（UNRISD）を含む合計24のパートナー組織の協力の下で実現し、当事者や一般の人々にとっても参加しやすい前代未聞の包摂性をもってオンラインで開かれた。サミットの最も重要な成果物は、『エコソーシャル世界のための人民憲章』（<http://www.jasw.jp/news/pdf/2022/20220629-jp.pdf>）の採択であった。この憲章は、持続可能な世界においてすべての人々が信頼、安全、平和の下で暮らせるために、全人類が共に直面している課題に対する解決策について世界中の人々が共有することによって、成長する生きた文書及び参考資料として位置づけられている。なお、国内では、例えば本学会でも2022年の1月に「国際的な舞台におけるソーシャルアクション：ソーシャルワーカーによる国連アドボカシーとSDGs」をテーマとして、同時通訳付きの国際研究セミナーをオンラインで開催し、その動画記録と翻訳資料を公開している（<https://www.jsssw.org/news/post-1100.html>）。

今後は、気候変動に代表される自然環境の破壊に起因する様々な社会問題及び生活課題の解決と、それらの背景にある各種の構造やメカニズムへの働きかけは、日本のソーシャルワークにも期待されている。その中で、本学会及び会員の活動も大いに貢献し、新しいソーシャルワーク研究が展開される時代の到来を楽しみにしている。

## Ⅱ. 日本ソーシャルワーク学会第 40 回大会開催案内

日本ソーシャルワーク学会第 40 回大会

### 宮城大会開催要項 (概要)

大会テーマ：実践現場からの情報発信と実践研究 ～震災復興支援の経験を踏まえて～

#### 【テーマの趣旨】

第 40 回を迎える日本ソーシャルワーク学会宮城大会では、近年、本学会が力を入れて来たソーシャルワーク職能団体との連携を深める取組みの一環として、「実践現場からの情報発信と実践研究」を取り上げます。そして、実践家の皆さんとご一緒に実践研究のあり方と、「実践現場からの情報発信」の意義を共に議論する場にできればと思います。

「実践研究」を含む「研究」は、社会や実践現場に大きな影響を与えうる価値ある「情報」を生産します。またその「情報」は科学的な知の公共財として体系的に蓄積されて、信頼できる「情報」を社会や実践現場にフィードバックします。

一方、優れた「実践現場」の取組みは、多くの実践家に共有することによって、より効果的な支援を生み出し、再現可能な有効な支援方法として定式化できます。より良い支援を生み出すためにも、優れた「実践現場」の取組みは「情報発信」し、積極的に共有することが求められています。またそれによって、「実践現場」の実践力も向上します。そこに「実践研究」の大きな役割があります。

さて、震災など深刻な自然災害が頻発する日本では、震災復興への取組みは社会的に大きな課題です。そこに果たすソーシャルワークの研究的、実践的、そして社会的な役割はとて大きいと考えます。この第 40 回宮城大会では、東日本大震災における経験を手がかりにして、「実践現場からの情報発信と実践研究」の相乗作用とそれぞれの役割について、皆さんとご一緒に議論したいと考えています。

#### 【大会の概要】

1. 開催日時：2023 年 7 月 8 日（土）、7 月 9 日（日）

2. 開催場所および開催方法：対面とオンライン（Zoom）のハイブリッド形式

※ただし自由研究報告は、対面会場のみ限定させていただきます。

・対面会場：東北福祉大学仙台東口キャンパス

〒983-8511 仙台市宮城野区榴岡 2-5-26（仙台駅東口より徒歩 3 分）

・オンライン会場：Zoom 使用（Zoom 情報は 2 日前までに送付）

#### 3. 実行体制について

○主催大会校・主催団体：学校法人梅檀学園東北福祉大学

○共催団体：

・【宮城県】（一社）宮城県社会福祉士会、（一社）宮城県精神保健福祉士協会、  
宮城県医療ソーシャルワーカー協会、宮城県社会福祉法人経営者協議会

・【全国団体】（公社）日本社会福祉士会、（公社）日本精神保健福祉士協会、（公社）日本医療ソーシャルワーカー協会、（特非）日本ソーシャルワーカー協会

○大会長：東北福祉大学学長 千葉 公慈

○副大会長：

折腹実己子（(一社)宮城県社会福祉士会会長）

小野正生（(一社)宮城県精神保健福祉士協会会長）

畠山稔（宮城県医療ソーシャルワーカー協会会長）

庄子清典（宮城県社会福祉法人経営者協議会会長）

大島巖（東北福祉大学副学長）

○実行委員長：田中尚（東北福祉大学教授）

○事務局長：石附敬（東北福祉大学准教授）、会計担当：阿部利江（東北福祉大学講師）

○学会担当理事：志水幸（北海道医療大学教授）、白川充（仙台白百合女子大学教授）

#### 4. 大会プログラムについて【予定】

##### □第1日目：2023年7月8日（土）

10:00 開会：学会長、大会長挨拶

10:30-11:45 基調講演および共催団体のご紹介・レスポンス

基調講演（60分）：大島巖、竹之内章代（東北福祉大学）

11:45-12:45 昼食

12:45-15:15 大会校企画シンポジウム

実践現場からの情報発信と実践研究

～震災復興支援の経験を踏まえた実践と研究の循環可能性～

##### ○シンポジスト：

・大橋雄介氏（NPO 法人アスイク）

・田中伸弥氏（(社福)ライフの学校）、

・真壁さおり氏（(一社)宮城県社会福祉士会）

・大会校サイドから「情報発信と実践研究の可能性」について発題

15:30-18:00 自由研究発表①／課題セッション①

18:30-20:00 情報交換会【実施の有無検討中／軽食のみも考慮】

##### □第2日目：2023年7月9日（土）

9:30-12:00 第40回大会記念企画「座談会：学会創立50周年を展望する」

12:00-13:00 昼食／総会 学会学術奨励賞報告

13:00-15:30 自由研究発表②／課題セッション②

15:30-16:00 クロージング

#### 5. 大会参加費

・事前申込：会員 7000 円（含共催団体の会員）、非会員 8000 円、学生・院生：3000 円

・当日：会員 8000 円（含共催団体の会員）、非会員 9000 円、学生・院生：3000 円

・オンライン参加者：上記と同額

#### 6. お申込み方法：

・申込サイトは現在調整中です。ホームページなどでご案内します。

# Ⅲ. 日本ソーシャルワーク学会第 39 回大会報告

大会テーマ：人口減少地域におけるソーシャルワークの創造性

日程：2022 年 7 月 2 日（土）～ 3 日（日）

会場：青森県立保健大学・オンライン開催

## 1. 大会開催校からのあいさつ 日本ソーシャルワーク学会第 39 回大会を終えて

青森県立保健大学 児玉 寛子  
(第 39 回大会実行委員会委員長)

去る、7 月 2 日（土）～ 3 日（日）に青森県立保健大学を会場として第 39 回大会がオンラインで開催されました。おかげさまで 100 名超のご参加をいただき、大きな通信トラブルなどもなく、無事、盛会裏に終了することができましたことをご報告申し上げます。

第 39 回大会のテーマは「人口減少地域におけるソーシャルワークの創造性」でした。開催校企画シンポジウムでは、青森県内の福祉実践者 3 名から、まさに人口減少地域で取り組まれているソーシャルワーク実践が紹介され、「創造性」「開発性」といった視点から議論を深めました。行政と地域住民との連携による地域共生、担い手の育成、民間の創造的発想など、ソーシャルワークの本質をふまえつつ、従来の枠組みを超えた今後のソーシャルワーク実践への示唆を得ることができました。2 日目の学会企画シンポジウムでは、「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」に関して理論的、実践的な観点から活発な議論がなされ、ジェネラリスト・ソーシャルワークにとって何が必要なのか、改めて考えさせられる機会となりました。企画にご協力いただいたすべての皆さまに感謝申し上げます。また参加者の皆さまには研究発表の最後の発表まで熱心にご参加いただきました。併せて御礼申し上げます。

今後とも、本学会をとおしてソーシャルワークの理念と実践を問い続けてまいりたいと思います。

## 2. 基調講演

「自殺に至る心理的課程と予防的介入ー地域における予防モデル構築ー」

青森県立保健大学 健康科学部 社会福祉学科 教授 大山 博史 氏

## 3. 開催校企画シンポジウム

「人口減少地域におけるソーシャルワークの創造性」

シンポジスト

- 井上 雅哉 氏（青森県鯉ヶ沢町社会福祉協議会 事務局長）
- 大橋 一之 氏（社会福祉法人 あ〜ると 理事長）
- 池田 右文 氏（(株) 池田介護研究所 代表）

コーディネーター

空閑 浩人 氏（同志社大学 社会学部 社会福祉学科 教授）

大潤町地域包括支援センター 納谷 むつみ

今回発表した 3 名の専門職の取組はまさに創造的であり、地域に密着した実践を期待される人的資源として十二分に機能を発揮されていることは感動的であった。その活動は、創造的ではあるが新しいものではな

く、地域に密着しているゆえに普遍的で、ミクロからメゾ、マクロへとケースの流れにそって必然的に広がっていく援助者としての基本的な態度であると思われる。

さて、人口減少地域でのソーシャルワークである。井上氏はソーシャルワーカーは住民だと語り、大橋氏の今後の目標は人材育成であった。池田氏は異業種との連携に可能性を求め、そのためのジェネラリストの必要性に触れていた。これらの答えは、これからのソーシャルワークの在り方に希望を示したと同時に、へき地での実践に新しい価値を「創造」したのではないだろうか。このテーマをより深く考察し、コラボセミナーへ繋げたい。

#### 4. 学会企画シンポジウム（オンライン）

『『ジェネラリスト・ソーシャルワーク』からの理論的・実践的問い直し』

##### 第 39 回大会（2022）学会企画シンポジウム報告

コーディネーター 横山 登志子

（札幌学院大学・学会理事 / 研究推進第 2 委員会）

2022 年 7 月 3 日（日）の午前 10 時から 12 時半で『『ジェネラリスト・ソーシャルワーク』からの理論的・実践的問い直し』と題して学会企画シンポジウムを開催しました。企画意図は、現代ソーシャルワークの重要概念である「ジェネラリスト・ソーシャルワーク」の理論的枠組みをあらためて確認したうえで、今日の文脈において何が求められているのかについて、3 人のシンポジストの発題を受けて議論を行うことでした。理論的立場から法政大学高良麻子氏、国際的文脈から東京都立大学和気純子氏、実践的立場から NPO 法人リカバリー代表大嶋栄子氏にご報告をいただき、同志社大学木原活信氏にコメンテーターとして論点整理、シンポジストへの質問、最後に意見を述べていただきました。

当日は主催者を含め約 77 名の参加者があり、8 件のコメントや質問がチャット機能を通して出されました。それらの質問を中心に追加的にシンポジストから説明をいただきましたが、論点を絞りディスカッションを深めるところまでの時間的余裕がなく残念でした。逆にいうと、このテーマのもと深めるべき論点が多く見出されたものと理解しています。

コーディネーターとして、この間の打ち合わせや当日のシンポジウムでの発表内容、質疑を通して理解した論点は 6 点ほどありました。①実践モデル／アプローチとジェネラリスト・ソーシャルワークの関係性・位置づけ、② Social Justice を実現するジェネラリスト・ソーシャルワークの立場からソーシャルワーカー間の共通言語あるいはまなざしをどう醸成するか、③ミクロ実践から社会構造を見ていく理論的ツールの不在、④日本では方法論分断よりも法制度ごとの分立と組織ベースの実践に縛られていることの問題、⑤ミクロからメゾマクロをつなぐ文化的コンピテンシー、indigenous、スピリチュアリティ概念の実践への取り入れ、⑥ Social Justice を実現する持続可能な組織運営。

今後もさまざまな角度からこれらのテーマについて研究交流することが求められていると感じています。シンポジスト、コメンテーター、学会実行委員会と理事の皆さま、参加者の皆さま、ありがとうございました。

## 5. 自由研究発表

(第1分科会)

江戸川学園おおたかの森専門学校 / 理事 / 座長 / 杉野 聖子

第1分科会は以下4件の研究発表がありました。

- ・第1報告 ホームレスのハウジングファーストに関する福祉事務所の実態と職員の認識発表者：三和 直人（佛教大学通信教育課程大学院 社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程）
- ・第2報告 民間相談機関における「総合相談」の特長と意義－20年間の相談記録をテキストマイニングで分析した結果から－ 発表者：大塚 明子（浅草寺福祉会館）
- ・第3報告 子どもの重層的”伴走型”支援の展開可能性－重層的支援体制整備事業における中学校との協働実践から－ 加藤 昭宏（半田市社会福祉協議会）
- ・第4報告 外国映画の中のソーシャルワーカー－日本で視聴可能な作品を通しての考察－ 発表者：口村 淳（岡山県立大学 保健福祉学部 現代福祉学科）

常時20名～25名の参加者があり、オンラインながら報告、質疑もスムーズに展開されました。分析についての事実確認や視点への関心など出された質疑応答から、いずれの発表も今後の更なる研究が期待される報告でした。皆様のご協力に感謝いたします。

(第2分科会)

北星学園大学 / 理事 / 座長 / 池田 雅子

第2分科会では5件の報告予定でしたが、第1報告と第3報告が事情により取り下げとなり、以下の3報告が行われました。

- ・第2報告「主任介護支援専門員によるサポートに関する先行文献の検討－スーパービジョンに焦点をあてて－」（山田 修 長野大学大学院 博士後期課程）
- ・第4報告「グループスーパービジョンと地域自立支援協議会の連動による取り組み－障害者の地域生活の向上を実現する協議会の活性化に向けて－」（北澤 和美 筑波大学大学院 博士前期課程）
- ・第5報告「介護予防デイサービスの利用効果の検証に関する研究－科学的介護情報 システム LIFE データ活用の試みから－」（山本 大輔 京都府立大学大学院 博士後期課程）

現場における支援の質向上が共通の関心事であり、それを支えるスーパービジョンや組織の在り方、データ活用という視点からの報告でした。報告者は3名とも実践現場と繋がりながら研究する大学院生であり、常時10名前後の参加者からは、今後の研究に向けた温かい助言や報告内容に対する感想が出されました。Zoom開催のなか、報告取り下げの時間帯について大会事務局から適切な周知があり、報告者・参加者の協力のもと滞りなく会を進行することができました。事務局はじめ、皆様のご協力に感謝申し上げます。

(第3分科会)

仙台白百合女子大学 / 理事 / 座長 / 白川 充

第3分科会は以下の4題の報告がありました。

- ・第1報告：「北海道において退院時に長距離移動を要する末期がん患者の在宅復帰支援に関する考察」 松前町立松前病院 主任医療相談員 小出 直（0939）
- ・第2報告：「生活保護を受給している母子世帯の自立の助長と自立支援に関する研究―「令和2年度全国母子生活支援施設実態調査報告書」を手掛かりに― 九州保健福祉大学大学院 社会福祉学研究科 博士

後期課程 橋本 夏実 (会員番号 0936)

- ・ 第3報告：「母子生活支援施設におけるソーシャルワーク実践の枠組みとその構築のための検討 (1) – A 施設を退所した14事例の分析と考察 –」 仙台市宮城野福祉事務所 佐藤 千草 (1054)
- ・ 第4報告：母子生活支援施設におけるソーシャルワーク実践の枠組みとその構築のための検討 (2) – 母子支援員へのインタビュー調査 –」 東北福祉大学 芳賀 恭司 (0751)

分科会参加者は15～20名程度で、4人の報告者は報告時間を厳守し、オンラインは発言のタイミングが難しい面もあるのですが、それぞれの報告に対して2～3質疑応答がありました。ネット上のトラブルもなく、つつがなく終了しました。適切な準備と運営をしてくれた事務局に感謝申し上げます。

## IV. 日本ソーシャルワーク学会 総会報告

### 総会報告 (2022 年度総会)

2022 年度総会は、7月2日 (土) (12時～13時10分) に、オンラインで開催されました。小山会長の挨拶に続き、総務担当の空閑副会長が、参加者の承認を得て議事進行を務めました。提案された以下の議案については、すべて承認されました。

#### I. 議案

##### 議案〔1〕 2021 年度活動報告 (案)

###### 1. 2021 年度理事会開催報告

第1回：2021年5月23日 (日) 13時～15時30分 (\* web 会議)

〔内容〕学会賞の選考、2020 年度活動報告、2021 年度委員会構成の確認、2021 年度活動計画、会員の異動ほか

第2回：2021年7月10日 (土) 18時～20時 (\* web 会議)

〔内容〕2020 年度活動報告&決算報告、2021 年度活動計画&予算、会員の異動ほか

第3回：2021年11月14日 (日) 18時～20時 (\* web 会議)

〔内容〕各委員会活動報告&予定、役員選挙の実施について、会員の異動ほか

第4回：2022年1月9日 (日) 17時～19時 (\* web 会議)

〔内容〕役員選挙結果&推薦理事の選出、各委員会活動報告&予定、会員の異動ほか

第5回：2022年3月28日 (日) 18時～20時30分 (\* web 会議)

〔内容〕2022 年度役員体制&委員会体制、「ウクライナ危機」に関する会長声明、各委員会より活動報告&予定、会員の動向、次期各委員会メンバーでの打ち合わせほか

###### 2. 2021 年度第 38 回大会開催報告

以下のとおり第38回大会を開催した。138名の参加があった。

大会日時：2021年7月17日 (土)・18日 (日)

大会テーマ：「ソーシャルワークの新たな地平—継承と刷新—」

大会担当：日本ソーシャルワーク学会・第38回大会実行委員会 (オンライン開催)

第38回大会実行委員会代表：志水幸 (本学会副会長：北海道医療大学)

### 3. 2021 年度委員会活動報告

#### (1) 研究推進第 1 委員会

##### ○学会誌編集委員会

- ・第 42 号を 2021 年 7 月に発刊した  
(グッドプラクティショナー 1 本、書評 1 本、書評リプライ 1 本を掲載)
- ・第 43 号を 2021 年 12 月に発刊した  
(調査報告 1 本、実践報告 1 本、グッドプラクティショナー 1 本、書評 1 本を掲載)
- ・第 44 号 (2021 年 12 月末投稿締切) より、投稿・査読の過程を電子化することとした。
- ・投稿、査読の電子化に伴って『『ソーシャルワーク学会誌』投稿規程』及び「機関誌『ソーシャルワーク学会誌』執筆要領」の一部修正を行った (2021 年 7 月 10 日付)
- ・第 44 号 (2021 年 12 月末投稿締切) の発刊に向けて査読等を行った。

##### ○学会賞選考委員会

- ・2021 年度の学会賞は、選考の結果いずれの賞 (学術賞、学術奨励賞) も該当者なしとなった
- ・2022 年度にむけて、会員からの推薦 (締切: 2022 年 1 月末日) を含めて選考作業を行った

##### ○研究奨励委員会

- ・会員研究奨励費について (2021 年 5 月末日締切) 2 件の申請があり、第 1 委員会全体で審査を行い、1 件が採択、理事会で承認され、研究費助成の対象となった  
(申請研究テーマ「協議会による社会資源の改良・開発過程に関する研究—ソーシャルワークに焦点を当てて—」)
- ・2022 年度の会員研究奨励費の募集を MM、HP などで行った (応募締切は 2022 年 5 月末日)

#### (2) 研究推進第 2 委員会

##### ○大会企画

- ① 2021 年度第 38 回大会を開催した
- ② 2022 年度第 39 回大会について、以下の通り内容の企画や調整を行った  
2022 年度第 39 回大会 (青森大会)  
期日: 2022 年 7 月 2 日 (土) ~ 3 日 (日) に開催予定  
会場: 青森県立保健大学 (青森県青森市浜館字間瀬 58-1)  
実行委員会: 児玉寛子 (委員長・青森県立保健大学教授)、工藤英明 (事務局長・同大准教授)、宮本雅央 (委員・同大講師)、田中志子 (委員・青森大学教授)  
開催形式: オンライン開催  
テーマ: 「人口減少地域におけるソーシャルワークの創造性」

##### ○研究集会企画

- 以下の通り、研究セミナーを開催した。
- 国際研究セミナー「国際的な舞台におけるソーシャルアクション—ソーシャルワーカーによる国連アドボカシーと SDGs —」
- 日時: 2022 年 1 月 22 日 (土) 15 時~17 時 40 分 (日本標準時間)
- オンライン (Zoom ウェビナー)

共催・後援【共催】日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（B）『多文化共生ケアシステムにおけるグローバルソーシャルワークの理論的・実証的研究』（19H01590）

【後援】日本ソーシャルワーカー連盟（JFSW）4 団体

国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW） 国際協力機構（JICA）

参加申込者数：354 人 当日アクセス数：149 人

#### ○共同研究活動

以下の通り、共同研究「レジデンシャル・ソーシャルワーク共同研究」に取り組んだ。

（全国母子生活支援施設協議会と本学会との共同研究）（担当：白川充）

テーマ「母子生活支援施設におけるソーシャルワーク実践の枠組みとその構築のための検討課題」

### (3) 研究推進第3委員会

#### ○出版・教材開発班

① 2021 年 6 月 5 日（土）に開催された第 69 回日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会（千葉大会）で研究ワークショップ（「医療ソーシャルワーカーのための実践研究ワークショップ」12 時 30 分～16 時 30 分：オンラインライブ配信）を実施した

② 「実践研究支援ワークショップ」を次の日程で実施した（オンライン開催）

15 名の参加があった

・1 日目：2022 年 2 月 13 日（日）13:00-17:00 ・2 日目：2022 年 3 月 6 日（日）13:00-17:00

#### ○社会貢献推進班

① 2021 年度のソーシャルワーク・コラボセミナーを「救急認定ソーシャルワーカー認定機構」との共催で実施した

日 時：2022 年 3 月 21 日（月・祝）13:00～17:00 オンライン開催

テーマ：実践者と研究者の対話（クロストーク）で拓く ESW の「実践理論」～「社会的救命」に資する力量あるソーシャルワーカーを目指して～

当日参加者：159 名、動画視聴回数（2022 年 4 月末まで公開）：130 回

### (4) 国際委員会

\* 研究推進第 2 委員会と共同して、国際研究セミナー「国際的な舞台におけるソーシャルアクションーソーシャルワーカーによる国連アドボカシーと SDGs -」（2022 年 1 月 22 日（土））を、日本学術振興会・科学研究費助成事業・基盤研究（B）『多文化共生ケアシステムにおけるグローバルソーシャルワークの理論的・実証的研究』（19H01590）と共催した。

### (5) 研究倫理委員会

- ・会員に対して研究倫理にかかわる啓発に努めた。
- ・2021 年度は研究倫理上の問題は発生しなかった。

### (6) 総務委員会

#### ① ニュースレターの発行

・130 号（2021 年 6 月 10 日）、131 号（2021 年 10 月 1 日）、132 号（2022 年 3 月 10 日）を発行した

#### ② メールマガジン（MM）の配信

・第 90 号（2021 年 4 月）～第 101 号（2022 年 3 月）の毎月の配信及び臨時号「日本ソーシャルワーク学

会 2021 年度役員選挙投票のお願い（2021 年 12 月）」の配信を行った

③ホームページの運営管理

・大会、コラボ、セミナー等資料、ニュースレターのアップその他コンテンツの充実等に努めた

④学会広報（会員拡大）のための「プロモーション動画」作成

・会員拡大、学会およびソーシャルワークの魅力発信等のための学会広報動画を作成した（2021 年 7 月完成・ホームページに掲載）

⑤ 2021 年度役員選挙を実施した

⑥その他・庶務事項等

1) 学術論文データベース（EBSCOhost：“エブスコホスト”）の本学会誌掲載論文の収録に関する契約手続きを行った。2022 年度にデータベースへの収録作業に入る予定

2) (株) ワールドプランニングへの業務委託について

・委託している業務内容

①会員管理、②学会経費等の経理業務、③学会事務用品の管理、④学会事務運営

・2021 年度分の会費入金率：93.9% ・2021 年度分の会費請求（2 月、7 月、11 月の年 3 回請求）

## (7) 正副会長会議

①正副会長会議の開催報告

第 1 回：2021 年 5 月 16 日（日）17 時～18 時 30 分（\* web 会議）

第 2 回：2021 年 7 月 10 日（土）17 時～18 時（\* web 会議）

第 3 回：2021 年 11 月 13 日（土）17 時～18 時 30 分（\* web 会議）

第 4 回：2022 年 1 月 8 日（土）17 時～18 時 30 分（\* web 会議）

第 5 回：2022 年 3 月 19 日（土）10 時～12 時（\* web 会議）

・各委員会の事業の進行管理の他、理事会の体制強化、学会の企画広報、職能団体との連携強化等の学会運営の課題（特命事項）について取り組みを検討した。

②特命事項と担当副会長

・理事会の体制強化&職能団体との連携（大島巖） ・学会資料のアーカイブ化（久保美紀）

・他学会との連携（志水幸） ・学会広報&会員拡大（空閑浩人）

## 4. 2021 年度会員異動報告

① 2021 年度入会者 45 名（正会員 43 名・準会員 2 名） ② 2021 年度退会者 34 名

③ 2022 年 3 月 31 日現在の会員数 総会員数 611 名（正会員 605 名 準会員 4 名 賛助会員 2 団体）

## 議案〔2〕 2021 年度 決算報告（案）

### 1. 2021 年度収支決算報告

総務担当より、2021 年度の一般会計および特別会計についての報告があった（次頁表参照）

日本ソーシャルワーク学会 2021年度決算書

2022年3月31日

I. 一般会計

1. 収入

(単位：円)

項目	2021年度 予算	2021年度 決算	差異 (収入減△)	備考
1 年会費	4,800,000	4,916,000	116,000	正会員：612件、準会員4件、賛助会員2件 48件 メテオ（著作権使用料） 利息 第38回大会実行委員会からの寄付金
2 入会金	150,000	240,000	90,000	
3 印税など	100,000	0	△100,000	
4 事業収入	50,000	8,792	△41,208	
5 雑収入	1,000	53	△947	
6 寄付金等	0	771,090	771,090	
収入小計	5,101,000	5,935,935	834,935	
前年度繰越金	6,401,488	6,401,488	-	
収入合計	11,502,488	12,337,423	-	

2. 支出

(単位：円)

項目	2021年度 予算	2021年度 決算	差異 (支出増△)	備考
(研究推進第1委員会活動費)				
1 学会誌発行費	600,000	190,300	409,700	編集費(2号分)、英文校閲、執筆料 特別会計(学術奨励賞/学会賞)へ繰入 研究費助成
2 学会賞関連費	500,000	500,000	0	
3 会員研究奨励費	500,000	400,000	100,000	
(研究推進第2委員会活動費)				
4 大会関連費	500,000	541,253	△41,253	第38回大会講師謝礼等&第39回大会(青森大会) 準備費 研究集会(学会セミナー)事業費 共同研究費、会議費等
5 大会企画費	200,000	0	200,000	
6 研究集会費	200,000	0	200,000	
7 共同研究費	600,000	0	600,000	
(研究推進第3委員会活動費)				
8 出版・教材開発費	300,000	0	300,000	旅費、会議費等 ソーシャルワークコラボセミナー開催費・講師謝金等
9 社会貢献推進費	400,000	98,449	301,551	
(国際委員会)				
10 国際委員会活動費	300,000	475,969	△175,969	国際研究セミナー会議運営費・講師謝金等
(研究倫理委員会)				
11 研究倫理委員会活動費	80,000	0	80,000	旅費、会議費等
(広報・渉外)				
12 福祉系学会連絡協議会関連費	100,000	100,000	0	日本学術協力財団賛助会費、日本社会福祉系学会連 合分担金 SCS研究協議会分担金 発行費、発送費(2号分) ホームページ管理費、メールマガジン委託費 学会プロモーションビデオ作成費等
13 SCS研究協議会関連費	110,000	100,000	10,000	
14 学会通信発行費	660,000	500,544	159,456	
15 ホームページ等運営費	180,000	257,400	△77,400	
16 会員拡大・体制整備費	350,000	335,500	14,500	
(学会運営費)				
17 理事会費	300,000	0	300,000	学会事務センター委託費 印刷・発送費、請求書・封筒作成費等 インターネット選挙システム利用費、会員名簿作成費等
18 正副会長会費	50,000	0	50,000	
19 事務局委託費	1,000,000	946,330	53,670	
20 事務局運営費	380,000	234,760	145,240	
21 役員選挙費	800,000	809,120	△9,120	
(その他)				
22 振込手数料	20,000	50,514	△30,514	会費振込に伴う手数料及び年会費(過払分)返金
23 出版準備積立	0	0	0	
24 予備費	100,000	0	100,000	
支出小計	8,230,000	5,540,139	2,689,861	
次年度繰越金	3,272,488	6,797,284	-	
支出合計	11,502,488	12,337,423	-	

## Ⅱ. 特別会計（学会賞）

### 1. 収入

（単位：円）

項目	2021年度 予算	2021年度 決算	差異 (収入減△)	備考
1 前年度繰越金	3,375,281	3,375,281	0	
2 一般会計からの繰入金	500,000	500,000	0	一般会計「学会賞関連費」より繰入
3 雑収入	0	28	28	利息
収入合計	3,875,281	3,875,309	28	

### 2. 支出

（単位：円）

項目	2021年度 予算	2021年度 決算	差異 (支出増△)	備考
1 学会賞副賞	300,000	0	300,000	
2 学会賞関連費	500,000	104,598	395,402	書籍代等審査・選考関係費用
3 その他	4,000	1,980	2,020	振込手数料
4 次年度繰越金	3,071,281	3,768,731	△ 697,450	
支出合計	3,875,281	3,875,309	△ 28	

## Ⅲ. 特別会計（出版事業）

### 1. 収入

項目	2021年度 予算	2021年度 決算	差異 (収入減△)	備考
1 前年度繰越金	24	24	0	
2 一般会計からの繰入金	0	0	0	
3 雑収入	0	0	0	
収入合計	24	24	0	

### 2. 支出

項目	2021年度 予算	2021年度 決算	差異 (支出増△)	備考
1 出版事業費	0	0	0	
2 出版事業関連費	0	0	0	
3 その他	0	0	0	
4 次年度繰越金	24	24	0	
支出合計	24	24	0	

## 2. 2021年度監査報告

2022年6月24日（金）岡本民夫監事、黒木保博監事による監査が行われ、監査報告書が提出された。

## 議案〔3〕 2022年度活動計画（案）

### 1. 2022年度役員体制

役 職	氏 名	理事・役員 任期	備 考
会長	小山 隆	2022.7.2～2026.総会終了時	
副会長	久保 美紀	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第1委員会・委員長／研究倫理委員会委員長
	和気 純子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第2委員会・委員長
	大島 巖	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第3委員会・委員長
理 事	空閑 浩人	2020.7.4～2024.総会終了時	総務委員会・委員長
	大谷 京子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第1委員会
	岡田 まり	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第1委員会
	木村 容子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第1委員会／研究推進第3委員会
	川島ゆり子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第1委員会／研究推進第3委員会
	荒井 浩道	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第1委員会／研究推進第2委員会
	池田 雅子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第3委員会／総務委員会
	白川 充	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第2委員会／研究推進第3委員会
	杉野 聖子	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第2委員会／総務委員会
	横山登志子	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第2委員会／総務委員会
	ヴィラーグ ヴィクトル	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第2委員会／国際委員会
	志水 幸	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第2委員会／国際委員会
	佐藤 俊一	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第3委員会／研究倫理委員会
	保正 友子	2020.7.4～2024.総会終了時	研究推進第3委員会／総務委員会
	監 事	福山 和女	2022.7.2～2024.総会終了時
黒木 保博		2022.7.2～2026.総会終了時	国際委員会・委員長
庶務担当理事	小野セレストア摩耶	2022.7.2～2026.総会終了時	研究推進第3委員会／総務委員会

### 2. 2022年度委員会体制（＊は役員以外の委員）

#### ①研究推進第1委員会

委員長：久保美紀（副会長）

委 員：荒井浩道 大谷京子 岡田まり 木村容子 川島ゆり子 福山和女

・学会誌編集委員会 大谷京子 岡田まり 木村容子 荒井浩道（＊加山弾 ＊梅崎薫）

・学会賞選考委員会 川島ゆり子 小山隆 久保美紀（＊木村真理子 ＊片岡靖子 ＊奥村賢一）

・研究奨励委員会 岡田まり

#### ②研究推進第2委員会

委員長：和気純子（副会長）

委 員：荒井浩道 ヴィラーグ ヴィクトル 志水幸 白川充 杉野聖子 横山登志子

#### ③研究推進第3委員会

委員長：大島 巖（副会長）

委 員：池田雅子 木村容子 佐藤俊一 白川 充 保正友子 川島ゆり子 小野セレストア摩耶  
（＊浅野貴博 ＊野村裕美 ）

#### ④国際委員会

委員長：黒木保博 委 員：ヴィラーグ ヴィクトル 志水幸 （＊浅野貴博 ＊松尾加奈）

#### ⑤研究倫理委員会

委員長：久保美紀（副会長） 委 員：佐藤俊一（＊稲垣美加子 ＊松倉真理子）

#### ⑥総務委員会

委員長：空閑浩人（副会長） 委 員：池田雅子 杉野聖子 保正友子 横山登志子 小野セレストア摩耶

### 3. 2022 年度委員会等活動計画

#### (1) 正副会長会議

- ・学会運営について情報を共有し円滑に活動を進めるよう、3 か月に 1 回程度会議を開催し協議する
- ・各委員会の事業の進行管理の他、理事会の体制強化、学会の企画広報、職能連携、他学会との連携等の学会運営の課題（特命事項）について取り組んでいく。
- ・特命事項と担当副会長
- ・職能団体との連携（大島 巖） ・学会資料のアーカイブ化（久保美紀）
- ・他学会との連携（和気純子） ・組織強化&学会広報（空閑浩人）

#### (2) 研究推進第 1 委員会

##### 1. 学会誌編集委員会

- ①学会誌発行に向けての作業：44 号・45 号を学会ホームページ上に電子ジャーナルとして発行する。  
あわせて、J-stage、EBSCOhost にも搭載する
- ②査読委員の委嘱：査読委員の任期満了に伴い、新たに委員の委嘱を行う
- ③会員の積極的投稿を促すとともに、学会誌の質の向上を図る
- ④学会誌を通して、会員の研究成果をより広く社会に発信できるように努める
- ⑤投稿規程・執筆要領の継続的な検討を行う

##### 2. 研究奨励委員会

- ①会員の個人研究及び共同研究の促進のため、2022 年度会員研究奨励費の申請を受け付け審査し、選考を行う。

##### 3. 学会賞選考委員会

- ① 2022 年度の学会賞は、選考の結果いずれの賞（学術賞、学術奨励賞）も該当者なしとなった。
- ② 2023 年度学会賞の選考を行う。

#### (3) 研究推進第 2 委員会

1. 2022 年度第 39 回大会（青森大会）の開催
2. 2022 年度研究セミナー企画について、新体制で企画・実施する
3. 全母協との共同研究について、第 39 回青森大会で 2 件の自由研究発表を予定しており、研究成果報告書を作成予定
4. 2023 年度第 40 回大会開催校について調整、打診を行う

#### (4) 研究推進第 3 委員会

##### 1. 出版・教材開発班

- ・「2022 年度日本ソーシャルワーク学会実践研究支援ワークショップ」を企画・実施する
- ・開催予定 [1 日目] 2022 年 10 月 9 日（日）13 時～17 時  
[2 日目] 2022 年 11 月 13 日（日）13 時～17 時  
[3 日目] 2022 年 12 月 25 日（日）13 時～16 時
- ・実施方法：オンライン（Zoom）による開催

##### 2. 社会貢献推進班

・2022年度「ソーシャルワーク・コラボセミナー in 青森」を企画・実施する

#### (5) 国際委員会

1. 他学会・大学・研究所等の国際セミナーへの共催、協賛を通じて学会としての国際活動に取り組む  
・2022年度国際シンポジウムの共催予定  
    テーマ「ソーシャルワークと戦争～避難民支援をめぐる実践・教育のグローバル連携～（案）」  
    日時：11月12日（土）17時～19時（予定）オンライン開催
2. 国際セミナー隔年開催に向けた準備、企画を検討する

#### (6) 研究倫理委員会

- ①会員に対して研究倫理にかかわる啓発に努める。②研究倫理指針の改訂作業を行う。
- ③研究倫理上の問題への的確な対応を図る。

#### (7) 総務委員会

1. ニュースレターの発行  
2022年度は、第133号（6月）、134号（10月）、135号（2023年3月）発行予定
2. ホームページの運営管理  
・大会、コラボ、セミナー等資料、ニュースレターのアップなど、2022年度も引き続きコンテンツや内容の充実に努める
3. メールマガジンの配信  
・2022年度も引き続き、毎月（月初めに）配信予定  
・フェイスブックなどSNSを活用した情報発信にも努める
4. 『ソーシャルワーク研究』誌の継続について  
中央法規出版が『ソーシャルワーク研究』誌を継承し、日本ソーシャルワーク学会、日本ソーシャルワーカー連盟、日本ソーシャルワーク教育学校連盟が編集・広報協力団体となり、刊行することになった。雑誌の構成については、従来の構成を踏襲する。各団体の担当枠として、活動報告などの紹介記事を掲載予定。リニューアル第1号については、2023年1月刊行予定。9月には案内できるように準備する。経費については、本学会からの2022年度予算に、『ソーシャルワーク研究』誌編集委託費として、20万円を計上する
5. その他庶務関係事項等  
・業務の一部を㈱ワールドプランニングに委託しており、2022年度も継続して委託する  
・委託する業務内容は以下の通り。  
    ①会員管理 ②学会経費等の経理業務 ③学会事務用品の管理 ④学会事務運営

#### 4. 2022年度 第39回大会について

- ・日時：2022年7月2日（土）～3日（日）
- ・開催校：青森県立保健大学 開催方式：オンライン開催
- ・大会テーマ「人口減少地域におけるソーシャルワークの創造性」

#### 議案〔4〕 2022年度 予算（案）

総務担当より、2022年度の一般会計および特別会計の予算について提案があった（次頁表参照）。

日本ソーシャルワーク学会 2022 年度予算書

2022 年 7 月 2 日

I. 一般会計

1. 収入

(単位：円)

項目	2021 年度 予算	2020 年度 予算	2020 年度 決算	備考
1 年会費	4,800,000	4,800,000	4,916,000	
2 入会金	150,000	150,000	240,000	
3 印税など	100,000	100,000	0	学会監修出版物印税
4 事業収入	50,000	50,000	8,792	著作権使用料 & セミナー参加費等
5 雑収入	1,000	1,000	53	銀行利息等
6 寄付金等	0	0	771,090	
収入小計	5,101,000	5,101,000	5,935,935	
前年度からの繰越金	6,797,284	6,401,488	6,401,488	2021 年度から 2022 年度への繰越金
収入合計	11,898,284	11,502,488	12,337,423	

2. 支出

(単位：円)

項目	2021 年度 予算	2020 年度 予算	2020 年度 決算	備考
(研究推進第 1 委員会活動費)				
1 学会誌発行費	500,000	600,000	190,300	編集費 (2 号分)、英文翻訳費等、J-STAGE 掲載費等
2 学会賞関連費	500,000	500,000	500,000	特別会計 (学会賞) へ繰入
3 会員研究奨励費	500,000	500,000	400,000	
(研究推進第 2 委員会活動費)				
4 大会関連費	500,000	500,000	541,253	大会準備費 (2022 年度第 39 回大会開催校へ)
5 大会企画費	200,000	200,000	0	学会企画シンポジウム謝金等関連費
6 研究集会費	200,000	200,000	0	研究集会 (研究セミナー開催等) 事業費
7 共同研究費	600,000	600,000	0	共同研究費、旅費、会議費等
(研究推進第 3 委員会活動費)				
8 出版・教材開発費	300,000	300,000	0	旅費、会議費等
9 社会貢献推進費	400,000	400,000	98,449	ソーシャルワーク・コラボ事業費
(国際委員会)				
10 国際委員会活動費	300,000	300,000	475,969	セミナー開催費、共催事業協賛金、旅費、会議費等
(研究倫理委員会)				
11 研究倫理委員会活動費	80,000	80,000	0	旅費、会議費等
(広報・渉外等関係費)				
12 福祉系学会連絡協議会関連費	100,000	100,000	100,000	日本学術協力財団賛助会費、日本社会福祉系学会連 合分担金
13 SCS 研究協議会関連費	110,000	110,000	100,000	SCS 研究協議会分担金
14 学会通信発行費	660,000	660,000	500,544	発行費、発送費 (3 号分)
15 ホームページ等運営費	250,000	180,000	257,400	ホームページ管理費・メールマガジン委託費
16 会員拡大・体制整備費	50,000	350,000	335,500	広報関係費等
17 『ソーシャルワーク研究』誌編 集委託費	200,000			『ソーシャルワーク研究』誌発行に伴う経費等
(学会運営費)				
18 理事会費	300,000	300,000	0	旅費、会議費等
19 正副会長会費	50,000	50,000	0	旅費、会議費等
20 事務局委託費	1,300,000	1,000,000	946,330	事務センター ((株)ワールド・プランニング) 委託費
21 事務局運営費	380,000	380,000	234,760	印刷・発送費、請求書・封筒作成費等
22 アーカイブ化推進費	300,000			学会資料 (ニューズレター等) のデジタル化等関係費
23 役員選挙費	0	800,000	809,120	会員調査・名簿作成、選挙システム整備費等
(その他)				
24 振込手数料	20,000	20,000	50,514	会費振り込みに伴う手数料等
25 出版準備積立	0	0	0	
26 予備費	100,000	100,000	0	
支出小計	7,900,000	8,230,000	5,540,139	
次年度繰越金	3,998,284	3,272,488	6,797,284	2023 年度への繰越金
支出合計	11,898,284	11,502,488	12,337,423	

Ⅱ. 特別会計（学会賞）

1. 収入

（単位：円）

項目	2022年度 予算	2021年度 予算	2021年度 決算	備考
1 前年度繰越金	3,768,731	3,375,281	3,375,281	2021年度からの繰越金
2 一般会計からの繰入金	500,000	500,000	500,000	一般会計「学会賞関連費」より繰入
3 雑収入	0	0	28	利息
収入合計	4,268,731	3,875,281	3,875,309	

2. 支出

（単位：円）

項目	2022年度 予算	2021年度 予算	2021年度 決算	備考
1 学会賞副賞	300,000	300,000	0	学術賞、学術奨励賞
2 学会賞関連費	500,000	500,000	104,598	賞状作成費、選考委員資料購入、会議費等
3 その他	4,000	4,000	1,980	振込手数料等
4 次年度繰越金	3,464,731	3,071,281	3,768,731	2023年度への繰越金
支出合計	4,268,731	3,875,281	3,875,309	

Ⅲ. 特別会計（出版事業）

1. 収入

項目	2022年度 予算	2021年度 予算	2021年度 決算	備考
1 前年度繰越金	24	24	24	
2 一般会計からの繰入金	0	0	0	
3 雑収入	0	0	0	
収入合計	24	24	24	

2. 支出

項目	2022年度 予算	2021年度 予算	2021年度 決算	備考
1 出版事業費	0	0	0	
2 出版事業関連費	0	0	0	
3 その他	0	0	0	
4 次年度繰越金	24	24	24	
支出合計	24	24	24	

議案〔5〕 次回（2023年度・第40回）大会について

日程：2023年7月8日（土）～9日（日）

会場：東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス

大会長：千葉公慈学長（東北福祉大学）

大会テーマ（仮）：「現場で学び続けて『実践力&実践研究力』を身につける～力量あるソーシャルワーカーのこれからの生涯学習支援を考える～」

## II. 報告事項

### 1. 「『ウクライナ危機』に関する会長声明（2022年3月19日）」について

「『ウクライナ危機』に関する会長声明（2022年3月19日）」を発出して学会ホームページに掲載した。

#### 「ウクライナ危機」に関する会長声明

2022年3月19日

日本ソーシャルワーク学会 会長 小山 隆

前年春から緊張を高めていた、ロシア・ウクライナ間の軍事的緊張は、2022年2月24日のロシアによるウクライナへの全面侵攻をもって、世界の大方の了解する限度を超えるに至り、各国のソーシャルワーク関係団体も様々な内容の声明、呼びかけを行っています。

以下に日本ソーシャルワーク学会会長としての声明を出します。

第一に、「侵略」「戦争」という言葉を使うか否かに関わらず、他国に対して振るわれる「国家による暴力」は（自国民に対する国家の暴力も含めて）、理由の如何を問わず非難され否定されるべきことです。先ずは、市民を巻き込む国家レベルの「戦争」状態は一刻も早く終結されるべきと強く訴えます。

第二に、2月24日以降の軍事的侵攻によって現実に発生しているウクライナに住む人々が受けた甚大な被害は看過できません。300万を超えるウクライナ難民を受け入れる近隣国の負担も大きく、問題解決後も破壊されたインフラなどの復興には気の遠くなる時間と努力が必要になります。

また、経済制裁を受けたロシア国民の被害も実は少なくありません。加害国、被害国、近隣国といった立場を越えて被害を受けるのは、そこで生活する人々です。

そのことに心を致すことの大切さを強調したいと思います。

一例として、日本赤十字社の「ウクライナ人道危機救援金」、日本 UNICEF 協会の「ウクライナ緊急募金」、国連 UNHCR 協会の「ウクライナ緊急事態」への募金等もご検討ください。

(3月28日理事会承認)

### 2. 「ウクライナにおける人道回廊について（緊急要請）（2022年3月28日）」について

「ソーシャルケアサービス研究協議会」からの、「ウクライナにおける人道回廊について（緊急要請）（2022年3月28日）」に、日本ソーシャルワーク教育学校連盟会長、日本ソーシャルワーカー連盟会長、日本社会福祉学会会長との連名で、本学会会長名を掲載した。

2022年3月28日

国連事務次長（人道問題担当）

国連人道問題調整事務所（OCHA）所長・緊急援助調整官

マーティン・グリフィス 様

#### ウクライナにおける人道支援回廊について（緊急要請）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟、日本ソーシャルワーカー連盟、日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会は、国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）等の国際的なソーシャルワーク機関と連携し、ソーシャルワーク教育者、実践者、研究者、学生らとともに社会福祉課題の解決に取り組んでいます。IASSW および IFSW は、人間の幸福と平和を促進するという理念のもと、国連の ECOSOC における一般協議資格を有し、国連の活動にも長年たずさわっています。

周知のとおり、今般のプーチンによるウクライナ侵攻により、現地では、罪のない人々が絶え間ない

砲撃にあい、家や生活の場を破壊されるという恐怖に晒されています。とりわけ、子ども、高齢者、障害、疾病など多様なニーズをもち、日頃より日常生活に支援が必要な人々は、自力で避難することが難しく、その多くはウクライナ国内に留まっているものと思われます。現在、マリウポリ、ケルソン、ハリコフなどいくつかの地域では、水、食料、電気、情報などの生活に必要なライフラインが遮断され、周囲からの支援がない状態で孤立し、取り残された人々が生命の危機に直面しています。

こうした状況に鑑み、私たちは、この戦争の即時停止を要請するとともに、緊急にウクライナ政府の管理下に人道支援回廊を設置していただくようお願い致します。

私たちは、国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）、国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）との連携のもと、すでに募金活動を開始していますが、今後、さらに国内外の機関や専門職と連携し、避難民への支援やソーシャルワーク専門職や学生への教育、市民への啓発活動に取り組んでいく予定です。そのためにも、安全な人道支援回廊の一刻も早い確保が急務です。何卒ご高配いただきますようお願い申し上げます。

日本ソーシャルワーク教育学校連盟会長 白澤政和

日本ソーシャルワーカー連盟会長 西島善久

日本社会福祉学会会長 木原活信

日本ソーシャルワーク学会会長 小山隆

### 3. 諸機関・団体からの寄贈資料、寄贈図書

この1年間の本学会への寄贈資料や寄贈図書について、報告があった。

## V. 「2022年度第1回理事会」報告

日時：2022年5月29日（日）18時～20時30分（Zoomによるweb会議）

役職	氏名	所属	出欠
会長	小山 隆	同志社大学	出
副会長	久保 美紀	明治学院大学	出
	志水 幸	北海道医療大学	委任状
	大島 巖	東北福祉大学	出
	空閑 浩人	同志社大学	出
理事	池田 雅子	北星学園大学	出
	大谷 京子	日本福祉大学	出
	木村 容子	日本社会事業大学	出
	横山登志子	札幌学院大学	出
	和気 純子	東京都立大学	出
	浅野 貴博	ルーテル学院大学	出
	荒井 浩道	駒澤大学	出
	岡田 まり	立命館大学	出
	佐藤 俊一	NPO 法人スピリチュアルケア研究会ちば	出
	白川 充	仙台白百合女子大学	出
	杉野 聖子	江戸川学園おおたかの森専門学校	委任状
	保正 友子	日本福祉大学	出
ヴィラーグ ヴィクトル	日本社会事業大学	出	
監事	黒木 保博	長野大学	出
	岡本 民夫	同志社大学名誉教授	欠
庶務	野村 裕美	同志社大学	出

\* 次期理事就任予定者 川島ゆり子（日本福祉大学）（出席）

\* 次期庶務担当理事就任予定者 小野セレストア摩耶（同志社大学）（出席）

## 1. 2022 年度役員体制 & 委員会体制について

2022 年度の役員体制および委員会体制について、以下の通り承認された。

### (1) 会長・副会長等

会 長 小山 隆

副会長 久保美紀（第 1 委員会担当） 和気純子（第 2 委員会担当）

大島 巖（第 3 委員会担当） 空閑浩人（総務委員会担当）

庶務担当理事 小野セレストア摩耶

### (2) 2022 年度委員会体制（\* は役員以外の委員）

#### ① 研究推進第 1 委員会

委員長：久保美紀（副会長）

委 員：荒井浩道 大谷京子 岡田まり 岡本民夫 木村容子 川島ゆり子

・学会誌編集委員会 ◎大谷京子 岡田まり 木村容子 荒井浩道（\* 加山弾 \* 梅崎薫）

・学会賞選考委員会 川島ゆり子 小山隆 久保美紀（\* 木村真理子 \* 片岡靖子 \* 奥村賢一）

・研究奨励委員会 岡田まり

#### ② 研究推進第 2 委員会

委員長：和気純子（副会長）

委 員：荒井浩道 ヴィラーク ヴィクトル 志水幸 白川充 杉野聖子 横山登志子

#### ③ 研究推進第 3 委員会

委員長：大島 巖（副会長）

委 員：池田雅子 木村容子 佐藤俊一 白川 充 保正友子 川島ゆり子 小野セレストア摩耶

（\* 浅野貴博 \* 野村裕美）

#### ④ 国際委員会

委員長：黒木保博 委員：ヴィラーク ヴィクトル 志水幸 （\* 浅野貴博 \* 松尾加奈）

#### ⑤ 研究倫理委員会

委員長：久保美紀（副会長） 委員：佐藤俊一（\* 稲垣美加子 \* 松倉真理子）

#### ⑥ 総務委員会

委員長：空閑浩人（副会長）

委 員：池田雅子 杉野聖子 保正友子 横山登志子 小野セレストア摩耶

庶務担当：小野セレストア摩耶

### (3) 2022 年度役員（監事）の件

岡本民夫監事（任期は 2024 年度総会終了時まで）より退会の申し出があったことを受けて、後任について検討することになった。

## 2. 「日本社会福祉系学会連合」より本学会からの役員選出の依頼について

加盟学会の持ち回りで役員を選出することとなっており、本学会への選出依頼があった。これに関して和気副会長が担当する旨、承認された。

## 3. 各委員会より活動報告（前回 3 月 28 日の報告以降分）及び 2022 年度活動計画

各委員会から、以下の通り活動報告および 2022 年度の活動計画についての説明、提案があった。

### ○研修推進第1委員会より

(1) 学会誌編集委員会より、『第44号』（2022年6月末発刊）の編集作業の進捗状況について報告があった。「編集委員会規程」及び「投稿規程」の改訂についても検討状況の報告があり、継続して検討する旨確認された。また、2022年度については、以下の通り計画している旨提案があり、承認された。

- ①学会誌発行に向けての作業：44号・45号を学会ホームページ上に電子ジャーナルとして発行する。  
あわせて、J-stage、EBSCOhostにも搭載する
- ②査読委員の委嘱：査読委員の任期満了に伴い、新たに委員の委嘱を行う
- ③会員の積極的投稿を促すとともに、学会誌の質の向上を図る
- ④学会誌を通して、会員の研究成果をより広く社会に発信できるように努める
- ⑤投稿規程・執筆要領の継続的な検討を行う

(2) 研究奨励委員会より、研究助成の申請募集（2022年5月末日締切）について報告があった。

募集がなかった場合は、申請期間を延長し、会員へ呼びかける旨確認された。

また、今年度の募集についても確認された。

(3) 学会賞選考委員会より、2022年度の学会賞選考の結果について、いずれの賞も該当者なしとなった旨の経過報告があった。

### ○研究推進第2委員会より

①7月2日・3日開催の第39回大会（青森大会）について、参加申込状況、自由研究発表申込状況、また大会準備状況等について報告があった。

②2022年度研究セミナー企画については、新体制で検討していく旨報告があった。

③共同研究について、全母協との共同研究は2021年度をもって終了し、第39回大会（青森大会）で、2件の自由研究発表を予定している旨報告があった。

④2023年度第40回大会について、開催候補校への打診や交渉状況について報告があった。

### ○研究推進第3委員会より

①出版・教材開発班より、「2022年度日本ソーシャルワーク学会実践研究ワークショップ」案について、説明、提案があった。

②社会貢献推進班より、2022年度「ソーシャルワーク・コラボセミナー in 青森」の企画について説明、提案があった。また、2021年度のコラボセミナーについて、成果物としてまとめていく検討をしている旨報告があった。

### ○国際委員会より

①他学会・大学・研究所等の国際セミナーへの共催、協賛を通じて学会としての国際活動に取り組んでいく旨および、「2022年度 国際シンポジウム（案）」についての提案があり了承された。

②国際セミナーについて、毎年負担が大きいので、隔年開催として企画を検討したい旨の提案があった。

### ○研究倫理委員会より

2022年度の活動計画について、①会員に対して研究倫理にかかわる啓発に努める、②研究倫理指針の継続的な検討を行う、③研究倫理上の問題への的確な対応を図る旨提案があり、承認された。

## ○総務委員会より

ニューズレターの発行状況、ホームページの運営管理、メールマガジンの配信、その他庶務関連事項について報告があった。あわせて、(株)ワールドプランニングとの学会事務代行業務委託に関する契約更新についての報告があった。

## 4. 『ソーシャルワーク研究』誌の継続について

久保副会長より、『ソーシャルワーク研究』誌について、日本ソーシャルワーク学会、日本ソーシャルワーカー連盟、ソ教連が編集・広報協力団体となり、継続して刊行することとなった旨、報告があった。編集委員体制等や経費等について、本件についての本学会の関与については正副会長会議にて対応することとなった。

## 5. 会員の動向

前回理事会（2022年3月28日）以降に申し込みのあった以下の6名の方の入会が承認された。また3名の方の退会の申し出があり承認された。

<入会> (6名)

	会員種別	氏名	所属
1	正会員	郭 鎔	一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程
2	正会員	菊池 恵未	特定非営利活動法人 NPO あおぞら
3	正会員	石本 真紀	宇都宮共和大学
4	正会員	北澤 和美	相模原市社会福祉事業団
5	正会員	小林麻衣子	(社福) 相模原市社会福祉事業団
6	正会員	土橋 明子	さいたま市教育委員会

<退会> (3名) 三品桂子 宮島敏 加藤洋子

## 6. 2022年度の理事会の日程について

○次回（2022年度第2回）理事会予定ほか、今年度の理事会日程について確認された。

## VI. 「2022 年度第 2 回理事会」 報告

日時：2022 年 6 月 25 日（土）18 時～19 時 30 分（Zoom による web 会議）

役職	氏名	所属	出欠
会長	小山 隆	同志社大学	出
副会長	久保 美紀	明治学院大学	出
	志水 幸	北海道医療大学	出
	大島 巖	東北福祉大学	出
	空閑 浩人	同志社大学	出
理事	池田 雅子	北星学園大学	出
	大谷 京子	日本福祉大学	出
	木村 容子	日本社会事業大学	出
	横山登志子	札幌学院大学	出
	和気 純子	東京都立大学	出
	浅野 貴博	ルーテル学院大学	出
	荒井 浩道	駒澤大学	出
	岡田 まり	立命館大学	出
	佐藤 俊一	NPO 法人スピリチュアルケア研究会ちば	出
	白川 充	仙台白百合女子大学	出
	杉野 聖子	江戸川学園おおたかの森専門学校	出
	保正 友子	日本福祉大学	出
	ヴァイラーグ ヴィクトル	日本社会事業大学	出
監事	黒木 保博	長野大学	出
	岡本 民夫	同志社大学名誉教授	欠
庶務	野村 裕美	同志社大学	出

\* 次期理事就任予定者 川島ゆり子（日本福祉大学）（欠席）

\* 次期庶務担当理事就任予定者 小野セレストア摩耶（同志社大学）（出席）

\* 監事就任予定者 福山和女（ルーテル学院大学名誉教授）（出席）

### 1. 第 39 回青森大会（7 月 2 日、3 日）について

参加申し込み状況等の報告があった。

### 2. 総会資料（案）について

第 39 回大会時の 7 月 2 日（土）開催の 2022 年度総会について、「総会資料（案）」に沿って、議案内容についての確認や協議を行った。

### 3. 会員の動向

前回理事会（5 月 29 日）以降に申し込みのあった以下の 1 名の方の入会が承認された。この間の退会申し出はなしであった。

	会員種別	氏名	所属
1	正会員	日比 眞一	東北公益文科大学

### 4. 2022 年度第 3 回の理事会日程について

今年度第 3 回の理事会については、10 月下旬～11 月上旬頃開催する旨確認された。また、第 39 回大会期間中の 7 月 3 日（日）昼休みに、理事懇談会（各委員会ごとの打ち合わせ会）を開催する旨確認された。

## Ⅶ. 「2022年度第3回理事会」報告

日時：2022年11月6日（日）18時～19時30分（Zoomによるweb会議）

役職	氏名	所属	出欠
会長	小山 隆	同志社大学	出
副会長	久保 美紀	明治学院大学	出
	和気 純子	東京都立大学	出
	大島 巖	東北福祉大学	出
	空閑 浩人	同志社大学	出
理事	池田 雅子	北星学園大学	出
	大谷 京子	日本福祉大学	出
	木村 容子	日本社会事業大学	出
	横山登志子	札幌学院大学	委任状
	志水 幸	北海道医療大学	出
	川島 ゆり子	日本福祉大学	出
	荒井 浩道	駒澤大学	出
	岡田 まり	立命館大学	出
	佐藤 俊一	NPO 法人スピリチュアルケア研究会ちば	出
	白川 充	仙台白百合女子大学	出
	杉野 聖子	江戸川学園おたかの森専門学校	出
	保正 友子	日本福祉大学	出
	ヴァイラーグ ヴィクトル	日本社会事業大学	出
監事	黒木 保博	長野大学	出
	福山 和女	ルーテル学院大学名誉教授	出
庶務	小野セレスタ摩耶	同志社大学	出

### 1. 各委員会より活動報告

○研究推進第一委員会より以下の報告があった。

#### (1) 学会誌編集委員会

- 1) 学会誌 45号編集進捗状況について
- 2) 投稿者から査読に関する意見書が届き、査読体制の円滑化を図るための対応策について、担当副会長・編集委員長連名で回答した。
- 3) 査読過程のさらなる円滑化にむけて、査読過程を編集委員がリアルタイムで共有する仕組みを導入し、さらに、投稿者の修正期間・査読期間の見直し、査読ガイドラインの見直し等について、現在検討中である。

#### (2) 学会賞選考委員会

2023年度の選考にむけて、会員からの推薦受付を開始する（2023年1月31日締切）。メールマガジン・学会ホームページ等で案内をする。

#### (3) 研究奨励委員会

2022年度は期限を延長したが、応募はゼロだった。

○研究推進第二委員会より以下の報告があった。

#### (1) 2023年度第40回大会（宮城大会）について以下の通り予定している。

- ・期日：2023年7月8日（土）～9日（日）会場：東北福祉大学
- ・対面とオンラインとのハイブリット開催を予定している。宮城県内の職能3団等と連携しながら実施したい。

- ・「学会企画シンポジウム」について、企画内容についての提案があった。
- (2) 2022年度の学会セミナーについて、以下の通り提案があり承認された。
  - ・テーマ「子ども家庭福祉ソーシャルワークの新たなニーズ・実践と専門職」
  - ・開催日：2023年3月5日（日）午後（13:00-16:00, 3時間00分）
  - ・開催方法：オンライン（Zoom ミーティング）開催
- (3) 共同研究について、以下の通り報告があった。
  - 1) 全国母子生活支援施設協議会との共同研究（2019年12月～）について、以下の報告書が完成した。  
『社会福祉施設におけるレジデンシャル・ソーシャルワーク（Residential Social Work）の構想と定着に関する実証的研究—母子生活支援施設の機能強化を中心に—』（2022年11月6日付）
  - 2) 2022年度から共同研究企画が提案され、承認された。テーマは「多様性と文化的コンピテンスにもとづくソーシャルワークのあり方に関する研究」

○研究推進第三委員会より以下の報告があった。

- (1) 出版・教材開発班
  - \* 「実践研究支援ワークショップ」の開催について報告があった。
    - ・1日目：2022年10月9日（日）13:00-17:00
    - ・2日目：2022年11月13日（日）13:00-17:00
    - ・3日目：2022年12月25日（日）13:00-16:00
- (2) 社会貢献推進班
  - \* 2022年度「ソーシャルワークコラボセミナー in 青森」について、企画内容や実施要領について提案があった。

○国際委員会より以下のシンポジウムについて報告と周知依頼があった。

- \* 国際シンポジウム（11月12日（土）17時～19時）について  
日本ソーシャルワーク教育学校連盟及び日本学術振興会・科学研究費助成事業・基盤研究（B）『グローバル・ソーシャルワークによる多文化地域共生社会の構築』（22H00928）と共催  
テーマ「ソーシャルワークと戦争～避難民支援をめぐる実践・教育のグローバル連携～」

○研究倫理委員会より、研究倫理規程と研究倫理指針の2階建てにして変更・作成する。加えて、違反行為の取り扱い規定を含めた、研究倫理委員会規程を新規作成する。これらについて、2023年度の総会で報告できるように作業を進めている旨の報告があった。

○総務委員会より以下の報告があった。

- ①学会広報動画の更新について
- ②学会メールマガジン（2022年8月（106）号～11月（109）号発行済）
- ③ニューズレター（第133号は2022年6月発行済、現在第134号編集作業中）

## 2. 会員の動向（前回理事会 2022年6月25日以降～11月4日現在）

\* [入会] 前回理事会以降申し込みのあった以下の5名の入会が承認された。

	会員種別	氏名	所属	備考
1	正会員	木原 琴	大阪大学大学院	
2	正会員	竹本与志人	岡山県立大学保健福祉学部現代福祉学科	
3	正会員	坂本 彩	彩社会福祉士事務所、(福)びわこ学園、龍谷大学	
4	正会員	小山 宰	青森県立保健大学	
5	正会員	章 琦	東京工業大学環境・理工学部	

\* [退会] 前回理事会以降申し出のあった以下の4名の退会が承認された。

原田旬哉 中村年男 堀井真美子 大月和彦

### 3. 次回理事会（2022年度第4回理事会）および正副会長会議の日程について

・2023年1月中・下旬で調整することで合意した。

### 4. その他

- (1) 学会ニューズレター等のアーカイブ化について提案があり、意見交換を行った。
- (2) ソーシャルワーク研究（中央法規出版）について報告があり、企画内容や本学会での体制について意見交換を行った。
- (3) 理事会追加審議事項として「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）」への本学会の加盟について提案があり、承認された。

## VIII. 文献紹介

木村真理子・小原眞知子・武田文編著（2022）

『国際ソーシャルワークを知る：世界で活躍するための理論と実践』中央法規出版

日本社会事業大学 <sup>ヴィラーグ ヴィクトル</sup> Virág Viktor

（学会理事 / 研究推進第2委員会、国際委員会）

国際ソーシャルワークは、本書において、国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）・国際社会福祉協議会（ICSW）・国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）のようなソーシャルワークや社会開発の主要な「国際諸組織に係る人権や移住問題に焦点化したグローバルな社会問題と政策課題、社会政策の比較、ソーシャルワーク実践を開発すること」として定義づけられている。このようなソーシャルワークが必要になる背景として、グローバル化に伴い、国境を越える社会問題の増加・拡大が挙げられる。これらには、一国では対応が困難で、国際的な連帯・協力を必要とするグローバルな社会問題のみならず、いわゆる「内なる国際化」、即ち国際移住に連れて多文化化する各国社会において、国際的・グローバルな文脈において発生するローカルな生活課題も含まれる。ミクロ・メゾ・マクロのように多層的で、バイオ・サイコ・ソーシャル・カルチュラル・スピリチュアル視点のように多面的で、そして複数の利害関係間の連携・協働を促進する専門性をもつソーシャルワークに対して、ローカル・ナショナル・リージョナル・グローバルを結びつけ、各レベルにおける多分野・多領域かつ多部門（セクター）及び多主体間のパートナーシップを促す実践を通じて、グローバル化の影響下で生じている上述のような社会問題や生活課題の解決に向けて貢献することがますます期待されてきている。

この期待に応えられる専門職人材の育成において活用できる一冊として本書が誕生した。タイトルからも分かるように、初学者向けでありながら、理論的な基盤とその実践的な応用の両方について網羅されている内容になっている。筆者も分担著者の一人を務めたが、企画段階から、1) それぞれの大学の国際（社会）

福祉論等の授業でよくみられる先進国を中心とした他国の制度の紹介・比較を主とした教科書になることを避ける、2) 近年、社会福祉系の学部・学科でも見受けられるようになってきた、海外協力や国際機関、あるいは国内の多文化支援などのように多様な実践現場への就職等を希望する学生の関心を満たす内容を目指すという2点が強く意識されていた。結果として、国際系、または多文化系の実践的な授業の教科書としても十分に使用可能な入門書が出来上がった。

本書は、13章構成となっており、これらを、大きく第1～5章の総論と、それ以降の領域別の各論に分けることができる。総論は、国際ソーシャルワークの概念的な整理、その必要性及び位置づけ、また課題と展望の他に、アフリカ・アジア太平洋・ヨーロッパ・中南米・北米の世界各地におけるソーシャルワークの特徴についてまとめている。なお、主に「上級者」のニーズに応える内容として、国際ソーシャルワークに強い関連性のある実践モデル及びアプローチと、本分野における研究方法や養成教育について紹介されている。各論では、難民等、先住民、女性と開発、外国人等母子、教育と子ども、医療、高齢者、防災がキーワードとして挙げられている。それぞれの領域に取り組んでいる研究者が、各章の前半で国際ソーシャルワークからみた主な課題と該当するアプローチについて整理している。そして、各章の後半は、国内外の実践事例の紹介に加えて、それらが与えている示唆やアプローチ・理論との照合など、応用に結びつく内容となっている。さらに、国際ソーシャルワークの最前線で活動してきた実践者等が計6つのコラムを提供している。その中で、読者の関心を引き、理解を深めるように、各執筆者の豊富な経験について分かりやすくまとめられている。

## 編 集 後 記

日本ソーシャルワーク学会通信「ニュースレター」No.134号と135号の合併号をお届けします。昨年の秋に発行予定の134号に向けた巻頭言のため「猛暑に想うこと ソーシャルワークと自然環境」となっています。「学会第40回大会開催案内（宮城大会、テーマ：実践現場からの情報発信と実践研究～震災復興支援の経験をもとに～）」、「第39回大会報告」、「総会報告」、2022年度第1回～第3回の「理事会報告」、「文献紹介」と盛りだくさんとなっております。紙幅の都合から新入会員の紹介は次号以降に掲載いたします。

巻頭言では自然環境の破壊と繋がり深い猛暑を取り上げ「ソーシャルワークと自然環境」の関係性について述べています。おりしもトルコ・シリア大地震が発生し、5万人以上の命が失われました。今後の復興に向けて多くの生活問題を解決するとともに、格差など問題を深刻化させている社会の仕組みに働きかけることが求められます。ソーシャルワーク実践において、自然環境や災害の問題に取り組むことの重要性を実感する日々です。

本学会のニュースレターでは毎月発行のメールマガジンと連動しながら、学会の活動内容や有益な情報を皆様にお届けしたいと思います。そこで紙面の充実に向けて、皆様からのご意見や情報などをお寄せいただけると幸いです。

北星学園大学 池田 雅子  
(学会理事 / 研究第3委員会、総務委員会)

### 【日本ソーシャルワーク学会事務局】

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル 2F (株) ワールドプランニング内

TEL: 03-5206-7431 FAX: 03-5206-7757

E-mail: jsssw@zfhv.ftbb.net <http://www.jsssw.org>